

運が貯金される 徳積みの仕組み



損得を超えた小さな週間で

枡野 俊明



やらぬ善より、やる偽善

推し活で貴重なチケットを手に入れた、仕事で成果を出したい、周囲からよい評価を得たい——そんな願いを叶えるために、「善いことをして徳を積もう」と考えたことはないだろうか。「やらぬ善よりやる偽善」という言葉は刺激的だが、そこには現実的な真実がある。どれほど立派な善意も、行動に移さなければ意味はない。動機が少し不純であっても、何もしないよりは行動したほうが、世界も自分も確実に前に進む。本書は、そんな割り切った視点から「善行」の本質を問い直す。

徳は行動によって積み上がる

人を助けたり社会に貢献したりする善行は、仏教では徳を積む行為とされる。一方で、「褒められたい」「得をしたい」と損得勘定で善行をするなら、それは偽善と呼ばれるかもしれない。だが、たとえ偽善であっても、席を譲る、ゴミを拾う、寄付をするという行動そのものが消えるわけではない。むしろ、最初は打算的な動機でも、続けるうちに自然と行動が身につく、本物の善へと変わっていく可能性がある。日々の小さな善行を楽しみながら重ねていくことで、徳は貯金のように少しずつ蓄えられていく。その積み重ねが、やがて自分自身をどう変えていくのか。本書は、徳積みの仕組みを知り、今日から実践するための一歩を示してくれる。

《目次》

- 第1章 善い種を蒔く
- 第2章 主人公として生きる
- 第3章 仕事を通して善行をする
- 第4章 社会に恩返しをする
- 第5章 損得を超えていく？

《書誌情報》

本体価格-----1850円
 ISBN-----978-4-86680-356-2
 ページ数-----286
 判型-----四六判並製

《著者》枡野俊明（ますの・しゅんみょう）

曹洞宗徳雄山建功寺住職、庭園デザイナー、文筆家。多摩美術大学名誉教授。

1953年、神奈川県横浜市生まれ。大学卒業後、大本山總持寺にて修行。以降、禅の教えと日本の伝統文化を融合させた「禅の庭」の創作を続け、国内外で数多くの作品を手がけている。芸術選奨文部大臣新人賞（1999年度）を庭園デザイナーとして初受賞。カナダ総督褒章（2005年）、ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章（2006年）なども受章している。2006年、『ニューズウィーク（日本版）』にて「世界が尊敬する日本人100人」に選出。主な作品はカナダ大使館庭園、セルリアンタワー東急ホテル庭園「閑坐庭」、ベルリン日本庭園「融水苑」など多数。2024年には最新作品集『禅の庭IV 枡野俊明作品集2018～2023』（毎日新聞出版）を刊行。『傷つきやすい人のための 図太くなれる禅思考』（文響社）など著書多数。禅の精神と現代人の悩みをつなぐ語り口に、世代を問わず共感の声が寄せられている。

初版 5000部（2025年12月）